



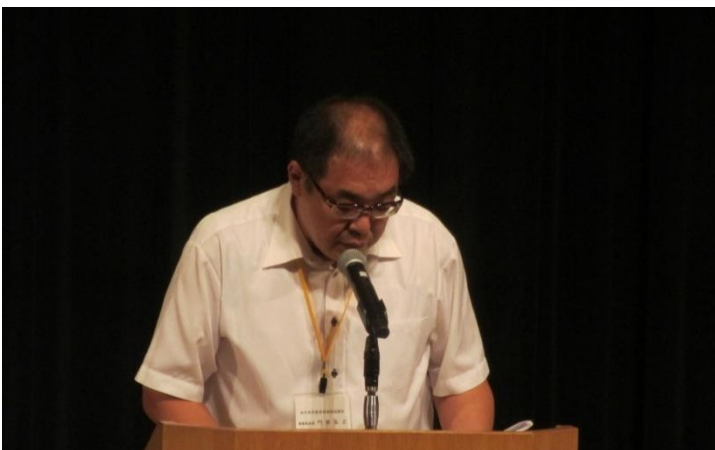
ほいく誌部を創設

第54回県連協 定期総会

岩手県学童保育連絡協議会の第54回定期総会は6月18日に久慈市のアンバーホールで開催され、県内の加盟クラブから代議員61人が出席しました。対面での開催は3年ぶりとなりました。午前中は議事を行い、2022年度活動報告、決算、2023年度活動方針、予算、規約の一部改正の5議案が承認、採択されました。午後は学習会を行い、早稲田大学の増山均先生がオンラインで講演を行いました。

総会の冒頭、本宮信也副会長が阿部会長のあいさつを代読。阿部会長は「学童保育は今、質的な発展が求められている。子どもたちにとって必要な学童保育とはどのようなものかを学び、共有していくことが大切。この総会が県内のすべての学童保育が安心して子どもたちを預けることができる、かけがえのない施設として発展していく契機になるようお願いしたい」と、あいさつを寄せました。

議事の中では、新たな専門部として「ほいく誌部」を創設すること、それに伴う規約の一部改正が提案され、門田弘之事務局次長が「ほいく誌をよりよい学童保育をめざす活動の柱に位置付け、学び活用していく。これまで以上に普及活動を推進していく」と提案理由を説明し、全会一致で承認されました。



ほいく誌部の創設について提案する門田事務局次長

各地域からの報告では一関市の大東学童保育所が施設

の改善を求める市への要望について発言したほか、地域連協の活動報告や、学校統合に伴う学童保育の統合、ほいく誌活用の取り組みなどが報告されました。発言の要旨は次のとおり。

【各地域からの発言要旨】

滝沢市 水本 真美さん（滝沢市連協事務局長）



滝沢市連協では会計検査院の指摘事項に係る委託料返還問題について、滝沢市の学童全体の問題として市連協未加盟の学童にも声をかけ連名で要望書を提出した。市からはまだ、連絡はないが今後も情報交流しながら行政側に訴えていきたい。この取り組みを通じ、市連協未加盟のクラブや脱退したクラブにも一緒に取り組むことの大切さを伝えていきたい。

一関市 亀卦川 優治さん（大東児童クラブ保護者会長）



大東学童クラブではA、B、Cの3クラブを運営している。Aクラブは中学校の敷地内で運営されており、子どもたちは外遊びができない。Bクラブは小学校内のオープンスペースをカーテンで仕切って運営しており、冬場はとても寒い。Cクラブはもともと長期休みのみの開所を市から依頼されたが、経費などの根拠が示されないまま通年開所を要請されている。3クラブの状況が改善され、子どもたちが安全に生活できる生活の場となるよう、県連協と連名の要望書を一関市に提出した。今後ご支援をお願いしたい。

花巻市 本宮 信也さん（花巻市連協顧問）



6年前に市連協のあり方検討会を立ち上げ活動してきた。3年前に事務局をつくり事務局員を雇用したが、その後事務所移転をきっかけに事務局員が辞めてしまい事務局がなくなってしまった。この1年はまた原点に立ち返り役員の輪番制を

どうするか、事務局をどう立て直しいくか検討している。花巻市の児童がどの地域でも安心して、安全に学童保育に通えるように、よりよい学童保育を目指し進んでいきたい。

大船渡市 岩淵 伸子さん（気仙連協ほいく誌部会長）



気仙連協ほいく誌部会では研修会や通信を発行するなどの活動を行っている。ほいく誌には学童保育を知る上で学びとなる記事が掲載されている。今年度は部員が中心となり大船渡、陸前高田それぞれの部会で勉強会を行っていく。また、普及、拡大も大事だが、実際に手にして読んでもらうため、モニター活動に力を入れていきたい。

久慈市 馬内 由美子さん（久慈市連協事務局長）



コロナ禍で大変なことも多かったが、リモートを活用して、保護者や指導員が研修会に参加できるようになり良かった。今後もリモートを使って研修参加などできるようにして行ってほしい。昨年度、市連協を脱退したクラブがあった。連協として呼びかけをしたが結果をだせずに終わった。今年度、1学童が、来年度もう1学童が脱退する予定。理由として役員の負担が大きいこと、市連協の事務局を担当すると指導員の負担が大きいことを挙げている。

北上市 後藤 良枝さん（北上市連協事務局次長）



北上市では市の方針で指定管理への移行が順次進んでおり、11クラブ中8クラブがすでに指定管理となった。残りの3クラブも移行予定。市連協として要望書を提出したほか、北上市との意見交換会を行い現状共有している。今後も保育環境の向上、指導員の人材確保などの諸課題に北上市と連携しながら、市連協が一枚岩となって取り組んでいく。

北上市 工藤 正紀さん

（東桜学童保育所さくらクラブ保護者会長）



今年の4月から、口内、黒岩、立花、稲瀬の4学童が統合し、新たに東桜学童保育所が開所した。公設民営から指定管理受託になることもあり、1年半前から統合委員会を組織し、準備をすすめてきた。北上市では学童統合の前例がなく、指定管理、建物の新築なども重なりとても苦労した。4学童はもともと運営方針が違う上、指導員の処遇などにも差があった。最終的に指導員の給与については北上

市の保育士の給与をベースに改善し対応した。統合から2カ月でまだ落ち着いていないが、子どもたちは学校が統合になり慣れない環境にあるため、その点をフォローすることを優先している。今後、父母会も一体となってよりよい学童をつくるためがんばっていく。今後は学童の法人化も考えており、法人運営に関するノウハウや、助言を頂ければと思う。

盛岡市 樽見館 浩さん（盛岡市連協副会長）



盛岡市連協では昨年度、市連協として市に要請書を提出した。その際に各クラブからの具体的な要望事項も添付し現場の声を市に届けたほか、市の担当課と懇談も行った。昨年末には県連協と市連協との懇談会を行い情報共有を行い、その内容をもとに、その後県連協は盛岡市担当課とも懇談を行った。3月末に市から要請書への回答があり、平成26年度以前に開所した学童保育への市単独の家賃補助が4分の1から3分の1に引き上げられた。市連協の活動の成果と考える。引き続き各学童が連携しながら学童保育の充実に向けて取り組んでいく。

個人会員 真田 祐さん（埼玉県・さいたま市）

県連の個人会員で現在、大学で学生に教えながら、「良い学童保育とはどんな学童保育なのか」ということを研究している。良い学童保育とはふたつ条件があると思っている。ひとつは「子ども自身が学童保育が大好きだ」ということ。ふたつ目は「保護者と指導員が一緒になって学童保育をつくっていること」だと考えている。親にとっては子どもはかけがえのない存在。その子を大事に健やかに育てていきたいという親の願いを指導員はしっかり受け止めて子どもと関わっていく。集団の中のひとりではなく、どの子もかけがえのない子どもだということを指導員が考えられる、そういう学童保育が良い学童保育だと考える。ただ、そういう学童保育をつくるためには、まだまだ条件整備が必要で、保護者と指導員が一緒になって運動していくことが求められる。岩手県連はこれからも保護者と指導員が一緒になって運動を進めていってほしい。



昼食をはさんで、午後は学習会が行われ早稲田大学の増山均先生が「学童保育を哲学する」と題してオンラインで講演を行いました。学習会には久慈市アンバーホールの総会参加者のほか、県内各地の保護者、指導員ら63人がオンラインで参加しました。